

安浦漁港の防波堤(コンクリート船「武智丸」)

安浦漁港(三津口)の防波堤として設置されている2隻の「武智丸」は、太平洋戦争末期の昭和19年、当時の鋼材不足を補うために、建造されたコンクリートの船で、終戦まで軍事物資の輸送にあたっていました。

安浦漁港には当時、防波堤がなく、甚大な被害が発生した昭和20年9月の枕崎台風をはじめ、度重なる被害を受けていたので、終戦後の昭和24年、地元漁業者の要望により防波堤として設置されました。

以来、漁港や地域を守るために防波堤としての役割を担っています。

詳細は

「安浦町まちづくり協議会ホームページ やすうら夢工房」でより詳細な内容を御覧いただくことができます。

<http://www.yasuura-yumekobo.com/know/knowdata/iseki/iseki001.html>

位置



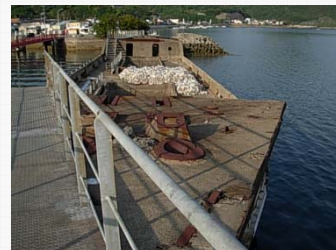
防波堤全景



2隻のコンクリート船
(写真中央及び左側)



防波堤(陸側のコンクリート船)



防波堤(沖側のコンクリート船)

「案内看板抜粋」

安浦漁港「武智丸」(コンクリート船)

防波堤の由来

1. 武智丸
排水量 2,300t
船長 64m, 船幅 10m
建造地 兵庫県高砂市
建造 昭和19年5月
第一武智丸(国道側), 第二武智丸(沖側に据付け)
2. 建造の経緯
第二次世界大戦で鋼材不足を補うため、舞鶴海軍工廠 林邦雄技術中佐がコンクリート船を設計、研究の結果、本部にて採択され大阪府にある土木会社の武智正次郎氏により高砂市塩田跡地の造船所にて建造した。
県内では、安浦町2隻、音戸町1隻が現存している。
武智丸は昭和19~20年にかけて4隻建造、3隻就航、瀬戸内海を始め南方にも航海したといわれる。
3. 安浦漁港に据付けの経過
昭和22年当時、安浦漁港には防波堤がなく台風の都度、漁船に被害が発生するので、当時の漁協共同組合長 菅田国光氏の大奔走により、武智丸を防波堤として据付けることに決定し、呉土木事務所の設計により事業費8百万円(当時)の巨費が投じられた。
海底をさらって深くし、粗朶沈床の上に置換砂を敷き、均しコンクリート船を沈設し周辺には船体安定用の捨石が施されている。
昭和48年第5次漁港整備計画で撤去の話もあったが船が強固なため保存し引続いて防波堤の役目をしている。

平成4年3月30日
安浦町
安浦町観光協会